

「生活作文の書き方教室」掲載作文使用条件

① 「生活作文の書き方教室」（以下「本サイト」）掲載作文の著作権は放棄しておりません。使用条件に同意した場合にのみ使用できます。

② 本サイトの作文は、学校（小学校および中学校）提出に限りその使用を認めます。

③ 本サイトの作文を使用し、何らかの問題が発生しても、本サイトおよび管理人は一切の責任を負わないものとし、すべて使用者の自己責任で対応するものとします。

④ 本サイトおよび作文に関しては、苦情とうは一切受け付けません。

⑤ 何かしらの問題が発生する可能性がある場合、判断した場合、使用は中止してください。

⑥ 本サイトの作文を他サイトへ転載することは厳禁です。

⑦ 本サイト掲載作文への直リンクは厳禁です。

以上

いのお店です。はやる気持ちを抑えるように、
今まで研究したことを一つ一つ復唱しました。
露店の前に着くと、水槽を一通り見渡しま
した。ポケットから二百円を取り出し、おじ
さんからポイをもらいました。ポイをもらう
にもコツがあつて、わたしのような子どもは
丈夫なポイがもらえるところです。
コツはポイ全体を水にぬらします。こうす
ることでポイが破れにくくなります。そして、
小さめの金魚に狙いを定め、水面に対して三
十度の角度でポイを入れます。金魚の頭をめ
がけ、枠の近くで金魚をすくうようにポイを
動かします。すると次の瞬間、金魚がヒット
しました。ポイの水を切るように斜めにした
状態で水面から引き上げます。
金魚一匹すくつても、ポイにダメージはあ
りません。もう一度同じようにポイを水面に
入れ、また金魚がヒットしました。五
匹目をすくつたところで、何となく周りがざ
わついているのを感じました。そして視線が

わたしに注がれている、そんな気もしました。子どもものわたしが五匹も金魚をすくっているその姿に、注目が集まっていたのです。「それならば、一年勉強したワザを見せてあげよう」と、金魚をすくい続けました。金魚をすくい上げると、小さな歓声が起こります。そして十匹目の金魚がポイにのった瞬間、紙が破れてしまいました。すると同時に、大きなため息が流れたあと、拍手が起こりました。子どもものわたしが、金魚を九匹もすくったことに対しての拍手でした。金魚すくいの研究したかいがあったというものです。帰り道、ビニールの袋に入れた金魚を誇らしげに父と母に見せると、「その情熱の半分も勉強に向けたらどうなんだ」と、あきれ顔で言われました。しかし、その言葉はわたしの耳には入りませんでした。「来年は十匹以上すくってやる」、そう決心して、祭り会場の雑踏を背に、家路につきました。